

「10年後のまち」描く 絵画コンクール 15人表彰

「10年後の登米市のまち」絵画コンクールの表彰式は3月17日、中田農村環境改善センターで開催され、入賞した市内の小中学生15人が表彰されました。

同コンクールは、現在市が進めている第二次総合計画の策定に合わせ、未来を担う子どもたちに市の将来やまちづくりについて関心を持ってもらおうと実施したものです。小学校低学年、同高学年、中学校の3部門に、市内各校から1010点の応募がありました。

中学校の部で最優秀賞を受賞した石越中1年の千葉友希さんは「受賞は今でも信じられません」と感激した様子で話していました。



入賞した小中学生。表彰式には15人中13人が出席しました

林業の取り組み評価 活動発表で林野庁長官賞

森林所有者や林業従事者らで構成する本市の津山町林業研究会は3月3日、東京都渋谷区で開かれた「平成26年度全国林業グループコンクール」で、全国2位となる林野庁長官賞を受賞しました。

同コンクールは全国の林業グループの活動を発表するもので、全国六つのブロック代表が出場しました。東北・北海道ブロックの代表として出場した同研究会は、地元小学生への林業体験学習や高校生に対する林業インターンシップ研修の実施などを発表。将来の林業後継者の育成に積極的に取り組んでいる活動が高く評価されました。



3月16日に市役所を訪れ、布施市長（右）に林野庁長官賞を受賞を報告した津山町林業研究会の皆さん

要援護者の支援協定 介護保険事業者連絡協と

市では、市介護保険事業者連絡協議会（会長・遠藤尚市社会福祉協議会会長）と、災害時における要援護者の緊急受け入れなどに関する協定を締結しました。協定には、災害時、市の要請に基づき、要援護者に同協議会加入事業所が施設を提供したり、居宅訪問で健康相談したりすることなどが盛り込まれています。

3月23日に市役所で開かれた協定締結式には、布施市長と遠藤会長、同協議会の代表者ら約20人が出席。協定締結後、布施市長は「4年前の震災を教訓に、本協定締結でこれからも災害弱者と言われる皆さまを支援していきたい」と述べました。



市との協定を締結した介護保険事業者連絡協議会。同協議会には37の事業者（69事業所）が加入しています

古文書など17点寄贈 栗原市（築館）の加藤さん

栗原市築館で歯科医を開業している加藤秀一さんから、所蔵していた古文書など17点を本市歴史博物館に寄贈されました。

寄贈されたのは、仙台藩主伊達政宗に関する古文書や刀箱、本市迫町佐沼の旧亙理家ゆかりの懸盤など、どれも貴重なものばかりです。3月11日には歴史博物館で、布施孝尚市長から加藤さんに感謝状が手渡されました。「登米は歴史のあるまち。ぜひ寄贈品を活用していただきたい」と加藤さん。布施市長は「いただいた品々をしっかりと継承し、多くの皆さんに見ていただけるようにしたい」と述べました。



寄贈品の解説をする加藤さん（右）。来年2月の歴史博物館企画展で一般公開する予定です

原木シイタケ初出荷 消費者招き盛大に交流会

原発事故の影響で出荷が制限されていた市内産の露地栽培原木シイタケの出荷制限が一部解除され、3月23日に出荷式が開かれました。出荷式は、生産者や市、県の関係機関で構成する市露地栽培原木しいたけ生産推進協議会（芳賀裕会長）が開きました。

当日は関係者のほか、消費者など約120人が出席。式では、関係者によるテープカットで出荷を祝い、原木シイタケを積んだトラックを拍手で見送りました。会長の芳賀さんは「今日の日を迎え、いろいろな思いが込み上げてきて本当に感動でいっぱいです」と声を詰まらせて話していました。



芳賀さん宅で開かれた出荷式。生産者、関係機関、消費者みなで出荷を祝いました

木質バイオマス推進 プロジェクトチームが提言

市環境市民会議（佐藤幸一会長）の木質バイオマス利活用プロジェクトチーム（佐藤博リーダー）は3月13日、市役所を訪れ、布施市長に木質バイオマスの利活用推進に関する提案書を提出しました。

提案書は、同チームが平成25年2月から検討会議や先進地視察研修などを重ねまとめたもの。地球温暖化防止対策の推進には木質バイオマスの利活用が重要。そのために「未利用材等収集・販売システムの構築」や「木質燃料暖房機器等購入補助金制度の創設」が必要とする提案書を、佐藤リーダーが布施市長に手渡しました。



プロジェクトチームのメンバーらが木質バイオマスの利活用推進を布施市長に提言しました